
逆輸入の男

チリドック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逆輸入の男

【Nコード】

N1599Z

【作者名】

チリドック

【あらすじ】

数年ぶりに尊敬した兄と再会すべくカフェで待ち合わせ。しかし兄は、あまりにも変わっていて妹はある決断を下す。

六年ぶりにニューヨークから帰ってきた兄を、

駅から徒歩5分のところにあるカフェで待っていると、

突然どこか見覚えのある顔をした男が向かいの席に座った。

紫色の花柄ポロシャツを白いパンツにきちんとしまい

赤いリュックを隣の席に大切そうに置いてぽっちゃりしたその男は呟いた。

「久しぶり。元気？」

肩を微妙に弛緩させて、微笑む男。

んー・・・お、おお！

じーっと、凝視しながら頭の中でぼんと手を叩いて、男に人差し指を向けて私は思わず尋ねた。

「えっと、ひよつとしておにい？」

（なんだこれは？　今アメリカではやりの悪戯か！？）

「なにを言ってたんだよみほ。他に誰だよ、あんまり変わってねえだろ？」

はははは、と乾いた笑みを浮かべながらテーブルに近づいてきたウェイトレスにホットコーヒーと告げてから、運ばれてきた水を一口飲む。

その動作が不思議と長く感じられて、脂汗が背中を伝うのがかなり気持ちが悪かった。

（腹が出てるじゃねえかよ）

胸中で呟きながら、必死に笑顔を作る。

「あはは、ごめんごめん。3年ぶりだからかな、なんか雰囲気が変わったね」

「ええ！？ そう？ いひひっひっひっひ」

肩を上下に動かし、おしぼりで額を拭う。

（こんな脂性じゃなかったよね。しかも海外滞在年数も違うし）

私は用件迅速に棲ませようと、本題を振った。

「んで、わざわざ呼んでどうしたの？ 父さん母さん待ってるから早くしてよ」

おお、そうだった！ と、頷いて兄はリュックから数枚の写真を取りだして私に渡した。

見ると、そこには緑色の長い髪をした目の大きい女の子が様々

な衣装とアングルで写っていた。

しかもすべてフィギュア・・・シマウマパンツって何だよ（滝汗）

・・・・・・・・

頑張つて全部見てみたけど、

・・・・・・・・

ぐしゃっ！

（あっ・・・）

気が付くと、私は写真をぐしゃぐしゃに丸めていた。力をこめすぎてがちがちに固まるくらい魂こめて。

兄が私の肩を叩き制止してようやく我に返った。

「ど、どうした！？ 救急車呼ぶ？」

「ご、ごめん大丈夫・・・うん大丈夫」

ハアハア、肩で息をしながら水を飲んで息を整える。

恨みがましい目つきで兄を見たが、本人はケロリと不思議そうな顔をしてこちらを観察している。

落ち着くと、私はこめかみを指先でさすりながら口を開く。

「なによこれ？」

「ぴっぴちゃん、いま向こうで熱いんだよ！」

いやオレはマジ驚いたね！ ジャパンアニメマジで世界征服してるんだぜ！

ところで！ 頼みは他でもない。

これのコスプレしてくれよ？ お前さんしかいねえんだ！！

お前さんのボディーで外人部隊を駆逐するのだ！！」

「・・・・・・・・へー」

不意に、窓の外の景色を私は眺めた。昔の風景が脳裏に流れる。

高層ビル30Fの洒落たレストランに久しぶりに再会した兄妹。

（かつて・・・痩せていて筋肉ムキムキ無精髭がワイルドオーラ満載で

マジに惚れられたセフレに刺されてもくじけなかった兄。

外人に喧嘩売ると言って単身アメリカへ・・・そして6年ぶりの再会）

「あ、そうだニューヨーク土産買ってきたによ」

若干背筋がぞわつとしたが、恥ずかしながら私は現金なもので、横目で兄がリュックをあさる姿をちゃっかり見ていたりする。

おそらくこの瞬間が一番兄との幸せな時間だったのだと私はしばらく思っことになる。

兄が満面の笑みで、私に手渡したのは金色の包装紙に包まれていて片手で持てるくらいの大きさだった。

「ありがと、開けていい？」

「うん、どうぞ。貴重品だから大事にね」

「うん」

・・・・・・包装紙を開けた。

思考停止約2秒

そこには、先ほどのキャラクターと同じような作風のカードの束があった。

具体的に一部を言えば、ピンク髪で巨乳な露出女、

10歳以下の少女が修道服を着て涙目で指をくわえているそんなものが50枚ほど。

「なにこれ・・・カードダス？」

「うん、ぴっぴカードダス　こっちで出回っていないアイテムでさ、妹のおぬしにこの秘宝を授けよう」

持つ手をよく見ると脂が浮いていた。

昔付き合っていた男のベツトから見覚えのないパンツを見つけるときと同じくらいの嫌悪感。

一応、断言しておくが。そういうのが好きな人たちを軽蔑とかする気は毛頭ない。

それは個性だし、色々な価値観があって善いと思う。

でも・・・でも。

プレゼントを渡す相手の好みくらい考えて渡せと、価値観を押しつけるなと私は兄に叫びたかった。

が、顔を上げて兄を見た瞬間その気は消える。

ブウウウン・・・ブウウウウン

自分の眉間に皺が寄りまくっていると、分かった。

目の前で行われている行為に、思わず顔をテーブルに

叩き付けて失神してしまいたい衝動に駆られる。

兄は、鼻歌交じりに平然と髭を剃っていたのだ。

さらにその合間に脇の匂いが気になるのかしつこく脇に鼻を近づけて嗅ぐ。

周囲から押し殺したような笑い声が聞こえてくる。店員は困ったようにこちらを凝視していた。

そんな視線や音をそれこそまるでくの坊のように気にせずに作業を続ける。

私が顔を真っ赤にしてずっと向かいの鈍感男を睨め付けているとようやく気づいたのか口を開いた。

「どうした？ そんな口ふくらまして見つめてきて。オレ妹属性じゃないって言っただけじゃなかったっけ？」

（もう・・・いいだろ・・・もう!?!）

私は勢いよく立ち上がると反動で倒れた椅子を持ち上げ叫ぶ。

「問答無用であたしたち一族の前から消えろおお!!」

バキッ!!!!!!!!!! ガシヤアアン!!

この日、初めて私は身内を半殺しにした。

E
N
D

（後書き）

けっしてオタさんを馬鹿にしているわけではありません。
あくまでネタなので^^; 気を悪くしたらごめんなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1599z/>

逆輸入の男

2011年12月5日20時29分発行